

市長の地域説明会～地域コミュニティのしくみづくりなど～

質疑応答

- 1 日 時 平成 29 年 5 月 19 日（金） 19 時 00 分～21 時 20 分
- 2 場 所 淵地区ふれあいセンター研修室
- 3 参 加 者 73 人
- 4 出 席 者 市長、企画財政部長、総務部政策監（行政サテライト担当）、企画財政部政策監（大型事業担当）、福祉部政策監（地域包括ケアシステム担当）

<（仮称）地域コミュニティ連絡協議会（以下「協議会」という。）について>

●今ある組織をそのまま協議会にしてよいのか。自治会長でなくても代表になれるのか。

- ・協議会の会長は地域でしっかり話し合っただけで地域の皆さんで決めていただきたい。話し合った結果、連合自治会長や他の新たな方が会長になることも有り得る。

●協議会でやろうとしていることは 10 年以上前から社会福祉協議会支部（以下「社協支部」という。）でやっている。なぜ、社協支部と協力してやらないのか。

●協議会と社協支部との関係はどうなるのか。

- ・協議会設立の流れは、長崎だけではなく全国的な動きであり、九州内の県庁所在地の都市でも既にしくみがある。
- ・自治会の活動や社協の活動が活発で繋がりが強いような地域には、現在の活動を更に後押しするような地域を支える(繋がりがづくり、人材育成、資金、等)制度にしたい。
- ・社協支部と、協議会をどう調整していくかは、地域ごとに様々なので、各地域の皆さんと一緒に考えていきたい。

●社協支部で策定した小地域計画が見直しの時期に来ているが、協議会を立ち上げるのであれば、小地域計画の見直しは無駄にならないか。

- ・小地域計画は作成していただいて構わない。作られた計画は内容によっては、まちづくり計画書としてそのまま使用してもよいし、福祉に特化している場合は、地域で検討のうえ、さらに他の分野を加えて、まちづくり計画書としてもよい。
- 話し合いの土壌が既にあることは地域コミュニティの基盤になるし、このまま推進していただきたい。

●先日新聞に小・中学校の再編について掲載されていたが、協議会のエリアは小学校区を 1 つの単位と想定しているが、小・中学校の再編によって、学校のエリアも変わるのに、2 つを同じタイミングで行うのは大変ではないか。

- ・小中学校の適正配置で一番大事なことは、子どもの数が減少している中、子どもたちが育つ環境をどうやって守っていくかである。子ども同士が切磋琢磨したり、教育活動ができにくくなっていることもあり、出来るだけ子どもたちに良い環境を提供しようと再編の案を作って、ご意見を伺おう

と考えている。

地域によって事情が異なるので、地域の話聞きながら少しずつ進めたい。

- ・協議会のエリアは概ね小学校区、または連合自治会の範囲と考えている。現在でも既に統合している地区もある中、エリアについては現行の小学校区であったり、1つの小学校区に連合自治会が複数ある場合等、地域によって様々なので、地域みなさんで話し合って決めていただきたい。

●自治会でも既に部会制を取り入れているが、協議会を立ち上げると、仕事が増えてデメリットが増えるのではないか。

- ・協議会は、繋がることで、既存の団体ではこれまでできなかったことができるようになったり、地域活動を整理することができる体制である。協議会の形については、部会を作ったり、ネットワークを作ったり、地域によって好ましい形はそれぞれなので、地域で話し合って決めていただきたい。他都市の例を紹介しながら、市もお手伝いしたい。

●こんなまちにしたいといった地域の目標を決めて計画を立てるには、若い世代も巻き込んで決めないといけないと考えるが、どうやったら巻き込めるかが課題である。

- ・協議会を進めるには地域みなさんがよく話をして、同意を得ていただく過程が大事である。地域コミュニティ推進室に聞いていただければ、誰が呼びかけをしてもらうか、沢山の方に参加してもらうためにはどうしたら良いか、話し合いの場づくり等々、お手伝いできるのでお訊ねいただきたい。

●地域コミュニティ活性化補助金をもらうため、団体を作ったが、その後、立ち消えてしまっている。協議会を立ち上げた後の支援体制はどうなっているのか。

- ・地域コミュニティのしくみづくりについては、単年度の支援ではなく、永続的に続けていけるようなくみとして作り上げていきたい。また、協議会設立後も、まちづくりを支援する職員が地域に寄り添って支援させていただく。

●協議会の人口が大きいところと小さいところでは、できることに差が出るのではないか。

- ・全地域ではないが、小学校区単位で概ね連合自治会ができており、協議会の単位としては小さくても連合自治会の範囲までが現在の段階では適正な規模ではないかと考えている。
- ・既に、統廃合している小学校区によっては、旧小学校区単位となることもあり得るので、それぞれの地域で話し合って決めていただきたい。ただ、単一自治会だと小さすぎるので、課題を解決するにはある程度小学校区ほどの規模があるほうが進めやすいものとする。

●協議会を現在の連合自治会単位でやるのは何も変わらない。そこで、長崎市を東西南北に分けて、その代表者から会長を選ぶくらい思い切ったことをしたほうが、地域が信頼できる会長ができるのではないか。

- ・協議会の単位が概ね小学校区単位もしくは連合自治会単位としているのは、歩いて回れる、見渡せる範囲が共通意識を持ちやすく、顔見知りであるということは大事な範囲と考える。地域コミュニ

ティは顔と顔のつながりが大事である。実際助けあうには、あまりにエリアが離れていると難しいので現段階では、概ね小学校区単位もしくは連合自治会単位が好ましいものとする。

<交付金について>

●税金を使用するのに、自治会に加入していない人は交付金を受けないのか。

・交付金の対象は、協議会の活動に対してであり、自治会の加入未加入は関係なく、個人へ交付するものでもない。上限額は設定予定である。

●自治会の祭りを地域で募金を集めて毎年開催しているが、自分たちで集めて自分たちで協力し合って開催することが団結に繋がっているし大事なことを考えている。交付金があるとそれに頼ってしまい、団結が崩れてしまう。

何もしないでも交付金を交付するのではなく、こんな事業をしたいので資金がほしいといったときに初めて、申請し、交付されるほうがよいのではないか。

・それぞれの地域がそれぞれの地域の課題解決のため(地域の繋がりづくりのため、高齢者のため、子どもたちの居場所づくりのため、情報を共有するため、等)にまちづくり計画書を作成していただき、それに基いたやりたいことについて、事業計画として提出していただき、実行するために必要なお金を、枠組みの範囲内で活動に対して交付金として交付する。

<その他>

●自治会加入者が毎年減っている。加入するメリットがないとも言われており、自治会の活動について未加入者は知らない。まずは自治会加入者を減らさない対策を考えないといけないのではないか。

・自治会加入率の減少の要因として、若い方が加入しない点や、高齢者の方が役職を出来ず迷惑をかけるから辞める等が挙げられ、深刻な問題である。

市としても、自治会がまちづくりにおいて大きな努力をされていることを、市民の方に周知し続けることで、加入率が下がらないように尽力したい。

若い方への具体的な取り組みとしては、新しいマンションが建つときは、建築申請が市役所に出た時点で、大家などに入居者が自治会に加入する条件をつけて、自治会費を共益費の中へ入れるようにH28年度からお願いをしている。

また、自治会の役割の重要性を子どもたちにも教える取り組みを行っている。

・他都市では、協議会のような様々な団体の方や世代の方と一堂に会して活動したり話をする中で、お互いを知り、様々な相乗効果が生まれている例もある。

●自治会が高齢者が多く運営が難しく人材が必要である。市の職員（OBを含む。）は様々なことを知っており、戦力となるのでぜひ自治会活動に参加していただきたい。

・市の職員の98%が自治会に加入している。自治会の役員等の人材の供給源として市が期待されていることは十分承知している。職員には、職員としての在り方や心構えを話していきたい。

●学校の統廃合によって、違うコミュニティができてしまう可能性があるのでは、いつまでにやるのか目途を示していただきたい。

- ・学校の統廃合はこれから地域に説明に入る。そこで、なぜ統廃合しようとしているのかを説明し、いろんなご意見をいただきたい。10年20年と余力があるわけではない。今出ている案が完璧ではなく、説明の中で意見を聞いて作っていくが、地域のみなさんのご協力が必ず必要となる。平成何年度までという明確な期限は言えないし、地域によってスピードが異なるだろうから、出来るところから進めていく。

●自治会間の軋轢があるので、自由に行き来できるようになったらいい。自分の自治会ではない隣の自治会の行事に参加しようとしたら、自治会費を払えと言われた。(意見)

●自治会に役員となるべく人がいない。(意見)

●自治会に子どもが少ない。子ども会や、老人会がない地域でどういった活動をするのか。人が集まらないので、市職員の協力をいただきたい。(意見)

- ・単位自治会では若い人がいなくても、連合自治会単位や小学校区になると若い人がいたり、PTAがあつたりといろんなことをやっていることを共有できる。今より少し広い単位で活動をして、それを単位自治会に戻していく。地域センターもできるので、少しずつ良くしていきたい。このしくみをきっかけに自治会活動も良くしていきたいと考えるし、まずはそのスタートを切りたい。